



五月一四日	四、〇〇〇	災害道路復舊費	東京府 大島元村外 五ヶ村組合
三月三〇日	五〇、〇〇〇	道路改良及國道改良費分擔金	岡山縣
同	二九七、六〇〇	都市計畫街路事業費	愛知縣 一宮市
五月一七日	三〇、〇〇〇	災害土木復舊費	神奈川縣
五月二五日	六、六〇〇	都市計畫街路事業費	岡山縣 岡山市

◎土木事務打合せ

内務省土木出張所長會議及道府縣土木主任官會議が本省に於て六月十日及十一日十二日に涉り開催せられたので、之を好機とし、六月十一日の夜道路改良會及港灣協會聯合し道路港灣及交通運輸に關する事務打合せを帝國ホテルで開催し、滞京中の土木官諸氏を招待した。水野會長其の他兩會役員多數出席し、主客二百三十名を算した。定刻に至り晚餐を共にした。デサートコースに入るや兩會々長水野博士は「今夕は諸君の御上京を機とし港灣協會及道路改良會相謀りて本會を開催した處、御多用の際にも拘らず斯く多數の御出席を得たるは深く感謝する所である。道路の改良

海運の進歩は之を十年前に比するに實に隔世の觀がある是れ國家及地方公共團體の力に依るのは勿論なるが、港灣協會又は道路改良會が亦與つて力あつたと云ふも敢て過言でない。斯く兩會が貢獻する所ありしは、一に地方に在る諸君の御高援と御助力に依ることの甚大なるは素より言ふを俟ない所である。國運の進展に伴ひ今後一段と陸の交通海運の發展を圖らねばならぬ。従つて兩會に於ても更らに一層の活動に出でんことを企圖して居る次第であるから、諸君に於ても從來に倍して御援助と御盡力を賜はらんことを希ふ次第である。粗酒粗肴以て旅情を慰するに足らざるべきも微意の存する所を酌みゆるく御快談あらんこと」を云々と挨拶され、杯を擧げ來賓諸氏の健康を祝された。來賓總代として二見北海道土木部長は「今回土木主任官會議を機とし會長閣下初め兩會關係各位は公務御多用の際なるにも拘らず本會を御開催され、會長閣下より特に御丁寧なる御挨拶を賜はりたるは感謝感激に堪えない次第である。不敏を以て地方土木行政にたづさわるに拘らず兩會に對

して寄與することの乏しきを顧みて汗顔に堪へざる所であるのみでなく、絶へず御鞭韉を加へられたことは深く感謝する所である。従つて私共の責任の多大なるを痛感せざるを得ない。近時農村振興災害復舊等の重大なる事業の遂行に關しては一段と御懇篤なる御指導を賜はつたが、今後とも十分御鞭韉あらんことを希ふ所である。尙本省の會議に於て六十頁にも餘る指示事項を承ることであるが、之が徹底を期する上にも兩會の方々より格別なる御指導を與へられたい。終りに本夕の御歡待に對して御厚禮を申上ぐる次第である」との主旨を述べて答辭とせられ杯を舉げて兩會の祝福を表せられた。

### ◎埼玉縣下皆野橋架設工事概要

埼玉縣下縣道荒川架設の皆野橋（開通式舉行前號地方通行欄掲載）の工事概要は同様藤田土木課長の通報左の如し

- 一、所在、府縣道、皆野停車場小柱線埼玉縣秩父郡皆野町大田村入會荒川架設。

- 一、橋梁延長。一〇五米三〇、全幅六米二〇、有効幅員五米五〇

- 一、取合道路工事。延長五二三米八八、内皆野寄三三〇米——大田寄一九三米八八、幅員五米五〇

- 一、計畫概要。本橋は秩父地方と兒玉地方及び群馬縣鬼石、藤岡地方とを結ぶ、荒川上流皆野町太田村入會に架設せられ、奥秩父山系に源を發する荒川は附近の岩石、岨々、樹木鬱蒼とし背配景に秩父連山を望む、新橋は架設前、假橋にて交通せしも近時交通量の増加は本橋の設計を促すに至れり。

附近の地形は兩岸傾斜し岩盤にて、基礎、橋臺は極めて良好なり。而も四圍山容の調和を得んには拱橋を架するに適し加ふるに附近砂、砂利の豊富なるにより鐵筋混凝土拱橋を採用するに決す。

- 一、工事概要。橋型鐵筋混凝土造「オープンズバンドレル」式拱、有効徑間三四米〇〇三連、此鐵筋總重量六五噸三
- 五、橋臺二基、橋脚二基、橋床及鋪裝橋床鐵筋混凝土厚一

五纏の上に厚三八耗「アスファルトブロック」舗装、高欄鐵筋混凝土造膠泥仕上、洪水面上の餘裕大田村寄橋臺起拱線より一米六五二皆野町寄橋臺起拱線より二米三四七。工事費。總工事費五萬參千貳百圓、内譯橋梁工事費四萬四百圓（一平米當り六九圓七七）、取合道路工事費壹萬貳千八百圓。

主なる使用材料。鐵筋六五應三五、混凝土一、二六二立方米九、洗砂利一、一三六立方米六一、洗砂五六八立方米三〇、「アスファルトブロック」五七九平方米一五。

現場使用職工人夫數。大工一、八一八人、鍛冶工一、三一七人、左官一七六人、葦職一五二人、電工一五人、石工四人、石積工五人、人夫九、一六八人、計一二、六五五人。

工期。着手昭和九年一月二十二日、竣功昭和十年四月十一日。

◎全國交通網調査會の實行委員決定

全國交通網調査會に於ては、調査の上關係方面に意見を建議する所があつて其實行委員の指名を水野會長に、一任せられたることは、本誌十七卷第五號所報の通であるが、該委員を左の通指名ありたる旨六月二十日付を以て通知があつた。

實行委員 丹羽 勤 彦氏

同 牧 彦 七氏

同 村井二郎 吉氏

同 中川 正 左氏

同 寛 正太郎氏

編輯上の御詫

本號の記事の延期を許されざるものあるので、附録第八回道路職員講習會講演集(十)佐藤内務技師の「交通整理」は次號に掲載するの已むを得ざることとなつた。

又「批評と紹介」の藤田氏の「都市の苦惱と集中か分散か」も亦同様としなければならぬことを深く御詫する次第である。